

## 第9回斎場視察セミナー 実施報告

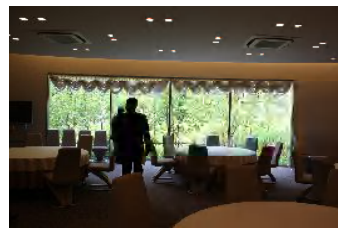
杜の都仙台に全国から43人が大集結！

新暦七夕の7月7日、天気は上々で集合場所の仙台駅前には早くも真夏の暑気。用意されたバスには全国から集まったJA葬祭関係者やJA設計関係者43人と事務局関係者が乗車し、乗車定員いっぱいの熱気をのせてセミナーは開始されました。

最初の視察先は、仙台市内青葉区にある㈱すがわら葬儀社「仙台北斎場清月記」と「密葬館北斎場清月記」でした。密葬館北斎場はロードサイドにあった中古車販売店を買収し改装したもので、大変コンパクトに仕上げられていました。ここでは近年多くなった密葬、小規模葬に対応しているとのことでした。



密葬館の敷地の奥に北斎場清月記が位置しています。とても洒落た建物であるとともに、後背地である台の原公園の森林の緑が印象的でした。この緑は室内から外を見た風景にも生かされていました。会館内部は葛西支配人の説明を受けながら、すべてオープンに見ることができました。北斎場清月記は家族葬対応の会館として企画されており、内部は葬家や親族の人々が使いやすいようにと細やかに配慮された部屋が設計、配置されていることに感心しました。北斎場清月記と密葬館とが隣り合わせにあることが、この施設を更に便利にしているとのことでした。



(式場からみた森林)

(お話しされる菅原社長)

北斎場清月記では、菅原社長から様々なことを話していただきました。会館葬が圧倒的となっているのだから「会館業」としての自覚をしなければならない、家族葬が多くなってきているが小さく安い葬儀になってしまわないようにすることが重要、社員教育は徹底して行わなければならない等、参加者には大変参考になったようでした。

翌7月8日、曇り模様の中、二日目の視察に出発しました。まずは宮城県南部にあるJAみやぎ仙南「やすらぎホールしばた」。JA仙南の葬祭事業は子会社の㈱JA仙南サービスが実務を担当されています。加藤社長から歓迎のご挨拶をいただき、事業取組みの説明から研修を始めました。JAみやぎ仙南では葬儀会館を2か所保有しており、やすらぎホールしばたは平成17年度に建てられた新しい方の会館です。やすらぎホールしばたでは平均月10件の葬儀が行われ、JA全体としては自宅葬と会館葬がほぼ同じくらいの数ということでした。会館はJAみやぎ仙南本店と同じ場所に立地して駐車場が広く、建物内外はすっきりと設計されており使い勝手がよいように見られました。ここでは会館の視察だけではなく、㈱JA仙南サービスが行っている納棺サービスの実演を研修し、参加者には大変好評

でした。



(ご挨拶いただいた加藤社長)

(納棺の実演)

続いて、JAみやぎ仙南の東隣にあるJAみやぎ亙理を訪問しました。JAみやぎ亙理においても、葬祭事業は子会社である㈱ライフサポートわたりが担っています。こちらでも菊地社長以下の歓迎を受け、研修を開始しました。JAの管内は年間死亡者数が5百数十人という市場規模ながら、JAを含め5社5葬儀会館が熾烈な競争を展開しているということです。JAでは平成16年に設置した「JA葬祭会館蓮月季」での葬儀がほとんどですが、自宅葬を含め月平均10件の葬儀を施行しています。蓮月記で参加者の目を引いたのは、祭壇後ろが全面ガラス張りとなっていて樹木を植えられた中庭が見えることでした。モダンな葬儀空間を演出できるだろうと思われました。トイレがお客様用と従業員用と分けられているのも、多くの人が感心していました。また、鈴木センター長から会館運営上の様々なアイデアや経験を聴くことができ、参考になることが多くありました。



(向こう側が中庭)

(鈴木センター長)

二日間、視察先の皆様方の温かい歓迎の中セミナーは無事終了しました。視察先の皆様、大変ありがとうございました。また、セミナー実施にご協力いただいた全農宮城県本部生活部と生産資材部（施設住宅課）の皆さんにも、厚くお礼を申し上げます。

《参加者の声》

- 菅原社長が言われた家族葬の増加に対する危機感とその対応策については、わが社も重要課題としているので大変参考となった。
- JAみやぎ仙南の生きがい講座、メリアルコンサート等の地域社会とのふれあいが参考となった。納棺実技を見ることができてよかった。
- JAみやぎ亙理・蓮月季は祭壇壁のガラス張りなど、設計面で施工現場側の意見がよく伝わっているホールだと感心しました。

平成21年7月

(社)農協流通研究所 店舗生活部